

冬山雪上トレーニング

斎藤 宇

■山行年月日:2021年2月7日

■メンバー:大竹幹衛、大竹尚子、増田寿代、斎藤美和子、斎藤憲一、石川貴大、杉崎圭洋、栗田光基、斎藤宇

■コースタイム:裏磐梯スキー場下部②

8:00～赤沼西側付近 9:30 訓練終了
12:30

人目が気にならない広いフィールドで、と裏磐梯火口壁周辺でのトレーニングの計画となった。リフト開始前からスキーで登るメンバーと、8:30 開始まで待ち 2 基を繋いでリフトを利用するメンバーが終点で落ち合う。リフトは 1 回券が 500 円だ。地図を確認後、訓練場所を広い場所が取れそうな銅沼西側周辺に移動。訓練内容は①ビーコンの操作、②埋没者の救出、③弱層テスト。

まず、ビーコン操作。12 月の例会にて電池確認や机上での操作方法をレクチャーした。次のステップとしての実地訓練だ。まず、一人ひとりの送信、受信の反応確認から。パーティーと要救助者を想定して雪崩後の発見救助のリハーサルを繰り返す。他の登山者からは離れた場所ではあったが、不明な方向への反応に惑わされたり、深く埋めたビーコンの磁力線をうまくたどれず時間がかかつたりする場面もあった。様々な想定をしておくべきだ。

次に埋没者の救助。まず、雪に埋もれた状態がどういうものなのかを経験し

ておくためメンバー数人に埋まつてもらう。穴を掘り、立っている状態や横になつた状態で気道には気を付けながら雪をかけていく。横になつて埋められた石川君は完全に身動きが取れない。立つて状半身が出ている状態でも、なかなかはい出しができないようだ。

最後に弱層テスト。斜面の雪を両腕で抱えられる適当な大きさの柱状にくりぬく。積雪が凍結と融解を繰り返しできる弱層を確認する。表層雪崩が起きやすい層だ。深い場所に位置すれば雪崩の量も大きくなる。リスク管理の判断材料だ。

気温が下がり、雪が降ってきた。一通り予定していた訓練ができたので 12:30 訓練終了。雪山シーズンの準備ができました。



埋没の感想は？